

令和7年度 第1回吹田市立市民公益活動センター指定管理者候補者
選定委員会議事要録

1 日時

令和7年11月26日(水) 午前10時から11時

2 場所

吹田市立市民公益活動センター 会議室 2・3

3 出席者

稲田委員、江渕委員、古矢委員、平山委員、船城委員

4 公開・非公開

非公開

5 次第

- (1) 委員長及び副委員長の選任
- (2) 諮問
- (3) モニタリング・評価の進め方
- (4) ヒアリング
- (5) その他

6 議事録

事務局 ただいまより、令和7年度第1回吹田市立市民公益活動センター指定管理者候補者選定委員会を開催いたします。選定委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、本選定委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

本日は選定委員5名のうち、出席委員5名で半数以上の出席がございますので、吹田市立市民公益活動センター条例施行規則第25条第2項の規定により、本選定委員会が成立していることをご報告いたします。また、本選定委員会は、吹田市情報公開条例第28条第2号及び第3号の規定に基づき、非公開とします。

なお、委員名簿は本市ホームページ等で公表させていただきます。また、議事の概要を公表いたしますが、委員のお名前は匿名となります。

それでは、机上に配付しております委嘱状をご確認ください。委嘱期間は、本日の諮問から答申をいただくまでとなっております。

(委員あいさつ)

次に、事務局職員をご紹介させていただきます。

(事務局あいさつ)

続きまして、次第1「委員長及び副委員長の選任」についてですが、規則では、両名の選任は互選となっております。どなたか立候補、またはご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員 前回と同様の委員長・副委員長にお願いするのがよいと思います。

事務局 ただいま、委員長に「A 委員」、副委員長に「B 委員」とのご意見がございましたが、委員の皆様ご異議ございませんでしょうか。

事務局 A 委員におかれましては、お引き受けいただけますでしょうか。

委員 お引き受けさせていただきます。

事務局 B 委員におかれましては、お引き受けいただけますでしょうか。

委員 お引き受けさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。それでは、拍手でご確認をお願いいたします。

(一同拍手)

事務局 ありがとうございます。
ここからの進行につきましては、委員長にお願いいたします。

委員長 それでは、進行を代わらせていただきます。
次第2「諮問」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (説明)

委員長 次第3「モニタリング・評価の進め方」について、事務局の説明を受けます。

事務局 (資料説明)

委員長 説明が終わりました。進め方について、確認しておきたいことがございましたら発言願います。

委員 (発言なし)

委員長 それではヒアリングに先立ち、【資料2】「第三者モニタリング・評価シート」の評価項目「3 サービス提供の継続性及び安定性」につきまして、C委員より専門的な観点から評価した内容の講評をいただきます。

委員 予算との比較で給与手当等の増加が、大幅赤字との原因かと思いますがその内容について吹田市のコメントで、長期的観点で人材を確保していくということで納得できますが、計算書が1年分しかなく過去のことを存じ上げてないので、この組織は、いつからありますか。
赤字の原資は過去の取り崩しということなので、原資はどこから生まれたのでしょうか。

事務局 平成 24 年の当センター開設から結果的には同じ法人の管理となっています。
結果的に余剰が出た分を今回お使いになられたというふうにお聞きました。

委員 歴史があるということでしたら、当期の赤字は納得できます。

委員長 サービス提供継続性及び安全性について、大きな問題はないというふうに理解してよろしいでしょうか。

委員 はい。問題ないと思います。

委員長 ありがとうございます。この後、ヒアリングに移りますので、質問もしていただければ、直接お考えが聞けると思います。
それではヒアリングに移りたいと思いますので、指定管理者に入室いただきます。

(指定管理者 入室)

委員長 委員会を再開します。
次第4「ヒアリング」を行います。

(指定管理者 自己紹介)

それでは、委員のご質問を受けることとします。

委員 2024年度は高い利用件数と利用率、相談件数となっていますが、どう変化があったのかお伺いをします。

指定管理者 コロナ禍で一時的に、利用件数が落ちましたが、会議室の利用件数に関しては、コロナ

前の水準に戻っています。ただ、以前から夜間の利用率が、低い状況にあります。若い世代が、オンラインで場所を借りなくてもいいので、大人数での利用は減っています。団体をみても会員数が多い大規模の団体より、小規模で活動をしている団体が増えています。毎年、夏休みと冬休みに学生の実習スペースとして開放していますが、何年か経つと定着して利用の仕方も変わってくると思います。大きなイベントに関しても、同様に何度かやると定着して利用人数は増えていきます。

工夫点で言うと、地域で活躍する人を発見し育てる連続講座をやっておりまして、今年度は、現役世代に焦点を当てることもあり、夜間に開催をしています。

ユニークな取り組みとして、テーマで語り合うことを前面に出さずに、コーヒーを飲んでゆっくり過ごしましょうと取り組むと思った以上の参加があり継続して取り組んで欲しいという声もありました。

家に帰るまでに何気なく少し会話を交わして帰るみたいなニーズも出ているかと思います。

委員 コミュニティの作り方は、目的・志向性が必要かというよりは、まず集まる。夜間の開催はそういう形で補っているということがわかりました。

コロナ禍以降は、オンラインと対面のハイブリッドが我々の中でも定着していると思いますが、オンラインに関する取り組みサポートは、コロナ禍以降で、変わったところとか、変化させたことがありましたら教えてください。

指定管理者 当初は、慣れない団体が多かったので、講座やオンライン環境の整備をしてきましたが、何年か経て慣れてきたのか、ネットなど環境を用意しておけば、活動や会議を団体自身でできているのでニーズが変わってきていると感じます。

委員 設備準備だけをしておけば勝手にやっているということでもいいですか。

指定管理者 はい。

委員 昨今の人手不足で職員が入れ替わることで利用者から継続して利用しにくいという話も他の施設で聞くことがあります。職員の常勤の職員6名、非常勤職員3名でローテーションを組まれています。21時30分まで開館されていることもあり、ご苦労もあるかと思います。その点をお聞かせください。

指定管理者 窓口は基本的に非常勤の職員が中心でやっています。常勤職員は事業や、団体の相談対応をしています。人材育成は、我々も課題感を持ちつつ、注力して取り組んでいるところでありますが、今のところは体制的には順調です。

委員 貸館の利用者の年齢は平均的に高い方が多いですか。

指定管理者 利用率は、平日の昼間が一番高く、おのずと利用者の平均年齢は高くなりますが、土日の利用は子供対象の活動もあり、夜間の利用もあるので若い世代、現役世代もそれなりに利用があります。

委員 舞台活動をしている団体も定期的に借りていますが、利用は多いですか。

指定管理者 防音設備がないので、練習の利用はないですが、貸ロッカーの使用はあります。

委員 ワークショップでの利用が多いということですね。

指定管理者 ここ最近、利用に変化でボードゲームの団体の利用が活発です。だいたい3団体で利用があり、オンラインが発展する中、対面のボードゲームを、若者が中心に朝から夜まで借りられています。孤独感を感じているのは、高齢の人よりも比較的若い人世代の人たちの方が調査で高いというのがあるので、意図せず、そのような世代に届いていた、コロナ禍以降で、際立った活動です。

委員 SNSの取り組みや新しいツールに対して、使用するスキルを、施設利用者に対して教える講座も行っていますが、情報のキャッチの仕方であられば教えていただきたいです。

指定管理者 同じ中間支援のネットワークで、現場から入った情報を教えていただくことが多いです。例えば講座の講師も、他センターの取り組みや参加者の反応も情報交換します。相談や活動の中、施設を運営しているので課題を見つけやすいというのもあります。課題は解決するため職員それぞれがその都度調べています。新しいものに関しては、成功事例に職員が研修に参加し、事業化を検討します。今回、AI研修をしますが、チラシもAIで作りました。色々な捉え方がありますが、活動の味方につけて、高齢者も活用すれば、思ったものができるかもと広報に関して工夫をしています。

委員 AI 研修についてどういう形で教えるのかというのにも興味ありますし、また、施設の入口付近に終活の始め方のチラシが置いてあったので、領域の幅の広さから相談すれば必ずこの拠点を通じて何か情報がつかめると感じました。

指定管理者 相談も大事にしています。困りごとを解決するのに自分たちができる範囲のサポートで止めるのではなく、今の時代、AIを使うなど、私達も学びながら困りごとに対応していけるよう努めています。

委員 満足度調査という仕組みがある中、データだけではなく、日々の接点の中で生まれる問題解決が一番大きなところで、その気づきが活かされているかと思うのですがその辺はいかがですか。

指定管理者 おっしゃる通りで、立ち上げ時から相談をベースに事業化していくのを、スタンダードにしています。我々は市民公益活動支援の専門家と言われる立場かもしれませんが、提示するのではなくて、相談の中の困りごとを解体しながら、事業化していくという形をとっています。ベースを大切にしたいです。

委員 決算書を拝見して、当期の予算に対して赤字は、主な原因が給与関係の増加ですが、増えた理由はなにですか。

指定管理者 窓口対応は、定型業務でどなたも担当できるかと思いますが、事業を進める、相談対応することにあたっては、専門性を育てなければならないと考えています。育てるためには、先行投資の必要があり、あえてプラスの人材登用をしました。その分負担が多くなったとご理解いただければと思います。
少しでも、余剰を積み上げながら、またどこかでというような流れになるかなと思っています。

委員 これは常勤職員の採用で経験者でない若い方を採用されたのですか。

指定管理者 はい。中途人材ですが、この分野の層は非常に薄いので、全然違う分野の方を採用して、専門性を持った人材に育てていくということになります。

委員 資料にある6名の常勤に新しく採用された方が含まれるということですか。

指定管理者 昨年度の採用者は、退職をされて、今年度については、新たな方を採用しています。

委員 わかりました。数字はきっちり作られているかと思います。原資も必要なので、繰越があるうちにということですね。

委員 採用に当たって能力や重視したいところがあると思いますので、採用の経緯を少しお話いただければと思いますがいかがでしょうか。

指定管理者 難しいところで、公共施設の管理運営に携わった経験があるから市民公益活動の支援ができるとは限らないため、スキルより、市民公益活動やNPOの業界に対しての興味関心が向いているというところと、それが確かなものか、発展性があるのかを見極め、応募に至った背景やストーリーが理解できるというかを大切にしています。
あと、仕事としての責任を持つ意欲を持たれているかは、コミュニケーション能力だけでなく、論理的な思考ができるかという観点も見ています。
事業ができないとソフト面で力を発揮できないため、その点重要視しています。

委員 職員それぞれ得意不得意があるかと思うので、育成のステップアップは違うのかなと思いますけれど、今年は重点的にこのテーマをやりましたなど人材育成の点で何かあれば教えていただけますか。

指定管理者 常勤職員はジェネラリストで、色々なスキルが求められると思っています。力を入れているのは団体支援で、相談対応は、話を聞いて、指導するとか、助言するというような支援のあり方ではなく、団体自体をエンパワメントしていくよう関わり方をどう持つか、他の中間支援組織と一緒に、研修を取り組むことに注力しています。また、単に講座やって終わりではなく、身近な相談を寄せる先として市民参加で施設を運営していくところが、ベースとしてあるので、コーディネーション力をOJTしながら取り組んでいます。

委員 常勤職員は、ジェネラリスト的に育成していくということですか。

指定管理者 そうです。毎週スタッフミーティングで、事業全体の振り分けをしますが、他の人でも担当できるように、一緒に事業の進捗を確認しています。相談対応も記録を取って共有しますが月1回のケース会議で、職員全員でケース検討をやりながら、対応しているので基本的には誰でもできるよう目指しています。

委員 得意不得意はあると思いますが、できるようになるものですか。

指定管理者 施設管理と事業の両方が基本的にできる人がベースで、お互いを補完し合いながらの部分もありますが一通りはやってもらいます。

講師も特別な専門性が要るものは、外からお呼びし、ルーティーンの講座は常勤職員の交代でやっています。

ただ、個性によって意見表明が出てくると、関心に応じた事業の担当をしてもらいます。エピソードで言うと、会計とかバックヤード業務はあまりやりたがらないのが多いですが、そちらを選ぶ職員もいました。会計に応じた研修を専門に生かすこともしているので、一定のベースができた上で、力をつけてもらいながら、全体で平均的に底上げしていくことをお願いしています。

委員 いい人材が集まっていると思います。

もう一つ指定管理の部分ではないかもしれませんが、他のセンターとの連携した取り組みを聞かせてもらっていいですか。

指定管理者 連携事業はラコルタの取り組みにもあります。この分野は歴史的にも浅く中間支援組織自体も、小さな団体です。人を育て上げにくく、目の前の事業に対応することで精一杯です。その中で、北摂エリアは、中間支援センターが各市にあることが多いエリアです。センター職員を育成して同じ経験値を有しているはずなので、連携し合うことによって、勤める職員の、人材育成を共同で事業化しています。

法人の事業ですが、今年度も内閣府から資金調達しながら、取り組んでいます。メインは2つあって、団体支援と人材育成。団体支援を通して人材育成をすることで伴走支援し、各センターが人を出して団体支援を、チームで取り組んでいき、得たものを各センターに戻すサイクルでやっています。

委員 2点ほどお伺いします。利用案内や周知にSNSや多様な宣伝活動をされており、YouTubeやInstagram等もあるように思いますが、使い分けはどうされているのでしょうか。

指定管理者 Instagramは昨年度から開設をしています。今まではFacebookが中心でしたが、若い世代や新しい団体は、ホームページではなく、Instagramを作って情報発信されることが多いので、我々も情報収集を兼ねて、アカウント開設をしています。発信する内容は、基本的には同じセンターの情報発信するのですが、ユーザー層が違うので、そこを使い分けとして意識してます。

委員 全く同じものをすべてのSNS媒体に出すというよりは、媒体ごとに使い分けているということでしょうか。

指定管理者 LINEの公式アカウントに関しては、事業の案内で、Facebook、Instagramは、団体の後方支援として、拡散して欲しい情報があれば発信する使い方をしており、若干媒体によって載せる内容が変わります。

委員 拡散する情報に審査は前提かと思いますが、LINEの場合は情報を流していくのが有効というところもありますし、InstagramやFacebookであれば受け手側の拡散の可能性もあるかと思いますが、ぜひケースを積み重ねていただければと思います。
もう1点おすそわけマーケットの現状はいかがでしょうか。

指定管理者 波があるので、多いとき少ないときがあります。相変わらず来館のきっかけや促しにはなっていると思います。おすそわけは未使用未開封のものを寄付していただいて社会貢献するものですが、少し発展して、切手の収集とか、本、CDを回収するボランティアグループが中心となって、昨年度3月に募集し集まったものをブックオフで換金しています。11万ぐらい吹田市のみんなで支えるまちづくり基金へ寄付をしています。それも一つ来館のきっかけになる活動であったと思います。

その他、今年から、大学の授業協力の中で出会った大学生が、古着のサークルを大学で立ち上げているのですが、何か社会貢献に繋がるようなことができないかということで、古着の回収ボックスを設置して、回収し、売上は寄附をするような取り組みもしています。

おすそわけマーケット以外の形でも社会貢献して交流が生まれる事業に展開ができていますのかなと思います。

ここに持ってくるだけで、それはボランティアで、案内もロータリーに貼り出したり、チラシでアピールするので、ルーティーンのようにくる方もいます。そこで職員が声掛けするやりとりも

また大事なかなと思っています。

委員 他になれば、質疑応答はこれで終わります。

指定管理者はここで退出していただきます。ありがとうございました。

(指定管理者 退出)

それではお手元の資料や質疑応答で確認いただいた内容を元に、各委員で資料2第三者モニタリング評価シートをいただきますが、事務局から何かございますか。

事務局 この場で提出可能な委員は、委員会終了後、12時まで待機しておりますのでご提出ください。後日に提出される委員は、恐れ入りますが、11月28日(金)までに、電子メールでご提出ください。

委員長 説明のとおりです。それでは最後に、事務局より、今後のスケジュール等についての説明をお願いいたします。

事務局 次回第2回の委員会は、12月10日(水)午前10時から、場所は同じで市民公益活動センター会議室 2,3 でございます。開催通知は改めてお送りいたします。

委員長 説明のとおりですので、よろしくお願いいたします。

それではこれで、第1回吹田市立市民公益活動センター指定管理者候補者選定委員会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。